

十二月
廿四

別紙
別紙前布
達ヲ指ス

太政類典

明治五年
壬申

五

兵政部

兵制

三月九日
五年

陸軍省へ達

御親兵被廢近衛兵被置候事

衆規淵鑑ニ曰是日近衛局被置但明治十六年六月十六日同局ヨリ回答ニ依ルト

布告

第八十六號

御親兵ヲ廢シ近衛兵ヲ置カレ候事

三月十七日
補

山縣兵部大輔建言

臣有朋謹テ白ス教化ヲ厚クシ以テ人心ヲ服シ武威ヲ盛ニシ以テ天下ヲ綏ンス此ニツノ者並行フテ相悖ラサルモノナリ故ニ臣等曩ニ海陸二軍ヲ皇張ス

二
公文類聚

ル所以ニ就テ其目今ノ方法ト將來ノ目途トヲ論シ
テ奏上セリ今又試ニ内國陸軍ノ施設ヲ論センニ近
衛兵御親兵ヲ以テ近衛兵ト雅訓ナラサルヲ盛ニシ 聖躬ヲ
保シ 禁闕ヲ護シ鎮臺兵ヲ整治シ以テ内國ヲ綏撫
シ人心ヲ鎮壓シ教化ト並行ヒ天下ヲシテ 朝意ノ
向フ所ト 皇威ノ盛ナル所以トヲ知ラシメハ則府
縣一治ノ實效目ヲ刻シテ待ツヘキナリ因テ別ニ近衛
及ヒ鎮臺條例ヲ附奏ス願フハ微衷ノ在ル所ヲ察シ
施設取捨其宜シキヲ得ハ今日ノ政體ニ於テ小補ナ
キニアラス如此ンバ獨リ臣等ノ幸ノミナラス天下
盡ク其方向ヲ定メ 王化ノ及ハサル所ナカラン謹
テ啟ス 正月四日 陸軍 鎮臺條例ハ載于鎮臺

近衛條例

一近衛ハ歩兵三聯隊騎兵一大隊大砲四坐トシ其餘
例後ニ附ス

一近衛ノ編制大隊ハ少佐ニ統ヘ聯隊ハ大佐ニ統フ
其他官員兵數一切他ノ兵隊ト異ナルヲナキ事

一近衛ノ三兵ヲ合シ上ニ中將若クハ少將一人ヲ置
テ都督タラシム都督ノ副官ニ參謀部ノ將校數員ヲ
置キ步騎砲ヲ分轄シ命令ヲ布下ス又會計監督一人
ヲ置キ會計經理ノ事務ヲ統括セシム其會計方法ハ
聯隊ヲ以テ區別シ各々監督ニ領シ其騎砲聯隊ニ及
ハサル者亦此ノ如クスル事

一近衛ノ都督ハ直ニ 聖旨ヲ奉シ職務ニ従事スト
雖モ常例外ノ事務ハ必ス陸軍卿ノ決ヲ取テ始テ服
行スルヲ許ス其部下少尉以上ノ黜陟必ス本省ニ牒

申シ其區處ヲ受クヘキ事

一京城戒嚴ノ日ニ當テ陸軍卿近衛ノ都督ト商議シ別ニ守備ノ方略方面ノ部署ヲ告示スルヲ以テ各自ノ長官令ヲ待タスシテ謾リニ兵隊ヲ動カス可ラサル事

一近衛平時ニ在テハ宮掖并ニ京城諸門ヲ禁衛シ車駕行幸スレハ前驅後殿道路ヲ警備スルヲ掌ル事

一太上皇 皇太后 皇后 皇太子等ノ宮門車駕モ上ニ准スル事

一京城内殿堂府庫諸衛門等守衛ヲ要スル所并ニ京城内廟門ノ守衛上ニ准スル事

一守衛ノ法ハ京城内坂下御門内ノ屯營ニ半大隊ヲ置キ正午ヲ以テ交番シ隊ノ長官本屯ヨリ差配シテ

諸門守地ヲ警備セシムル事

一兵卒杖ヲ執リ守衛スルハ外門毎ニ若クハ殿門毎ニ二人晝夜共ニ一字ニシテ交代スヘキ事

一王城正門ハ騎兵二騎對立シテ之ヲ守衛シ本營ヨリ一字ニシテ交代シ夜ハ歩兵ヲ以テ之ニ更フヘキ事

一京城内ノ巡邏ハ兵卒四人伍長一人之ヲ導キ時ヲ以テ巡行ス平時ハ大抵晝夜五次ニ過キスト雖モ差ノ緩急ハ當直長官ノ取捨ニ從フヘキ事

一守衛巡邏等ノ方法時ニ從テ更革スヘキ者ハ近衛ノ都督專ラ之ニ任スト雖モ必ス陸軍卿ノ許可ヲ得テ施行スヘキ事

一幸行ノ途次徒行ナル時ハ歩兵前後ヲ警備シ若ク

ハ馬上ナル時ハ騎兵左右ヲ警備スヘキ事

一月正朝會天長節拜賀祭典節會等ノ常儀ヨリ登極立
后立太子等ノ大禮ニ至リ若クハ國喪葬若クハ大臣
ノ葬儀ニ勅シテ儀仗ヲ賜フ節ノ事アレハ陸軍卿官
省若クハ當該主司ニ照會シテ差等ヲ定メ近衛ノ都
督ニ牒告ス都督之ヲ受テ其差等ニ從テ兵隊ヲ差配
シテ事ニ就シムヘキ事

一外國ノ君主王族若クハ國使ノ異等ナル者參朝
宴會ノ大儀アリ近衛ヲ遣ハシ途次ヲ警備シ前驅後
殿ヲ以テ送迎ノ禮ヲ修セシメ或ハ衛兵ヲ假シ客館
ヲ警護セシムル等ノ事アレハ陸軍卿外務省ヘ照會
シ其差等ヲ定メ示ス上^附ノ如キ事

一近衛ノ兵卒ハ全國諸隊ノ精選ナルヲ法トスルヲ

以テ每歲本省ニ於テ其缺員^ノ多寡ヲ量リ國內諸營
團ニ就テ壯兵ノ行狀謹恰ニシテ技藝ニ精通スル者
ヲ簡ヒ各自ノ司令長官ヨリ推舉セシメ本省ノ名簿
ニ記上シ毎年一次檢閲ノ上近衛各聯隊豫備隊ノ缺
員ヲ補シ本隊缺員アル毎ニ豫備隊ヨリ停年ノ順次
ニ從テ之ヲ充ツ其出身他路ニ由ルヲ許サ、ル事
一近衛ノ將校缺員アル毎ニ本省軍務局ニ於テ諸營
團中平素身行修潔學術精達ナル者ヲ拔擢シ檢査ノ
後之ヲ補スル事其方法軍務局條例内ニ備載ス
一近衛ハ全國諸隊中ノ精銳タルヲ以テ其給料被服
其他ノ鎮臺諸防戍ノ兵ニ比シテ稍々優裕ヲ加フル
事其規格ハ本省會計局條例内ニ備載ス又被服ノ制
ハ別ニ印本模式ニ詳ナリ

一近衛内外務調操規則并ニ病兵罪犯ノ處置等ハ東京鎮臺例内ニ規定セル如ク一切異ナルヲナキ事

百騎衛條例

一 百騎衛ハ近衛ノ一部ニシテ亦其將官ニ隸スト雖
氏侍衛ノ兵タルヲ以テ資格頗ル異ナル事

一 百騎衛ノ職ハ宮殿内ノ侍衛ヲ主トシ官中出入ノ
諸口ヲ警衛シ車駕燕出ヲ除クノ外臨幸ノ時ハ必ス
衆輿ノ左右前後ヲ警護スルヲ定例トスル事

一 百騎衛編制ノ法左ノ如シ

大尉一人 二等大尉一人 中尉二人

少尉二人

右各馬二匹ヲ給ス

曹長一人 給養軍曹一人 軍曹六人

伍長八人 喇叭手四人 騎士八十人

曹長以下各馬一匹ヲ給ス

一 百騎衛ハ將校ヨリ騎士ニ至ルマテ各飼丁一人ヲ
置テ馬匹ヲ飼養シ器具ヲ掃淨スルヲ司ラシムル
事

一 百騎衛ノ兵士ハ兵仗ヲ取り宮内ニ直シ 臨幸ア
レハ騎シテ扈從スルヲ以テ其宮内ニ直スル時ハ馬
匹ヲ飼丁ニ附シ厩内ニ安插シテ飼給ヲ失フヲ無ラ
シムル事

一 宿衛ノ法八十騎ヲ分半シ大尉各之ヲ統領シ日ヲ
隔テ、番上シ官中衛令ニ會シ大尉順次ヲ以テ諸口
ニ差配シ晝夜一時毎ニ輪代セシムル事

一 途次警衛ノ法司令長官ハ 車駕ノ右ニ導キ第二

司令官ハ左リニ導キ餘騎ハ駕後ニ跟隨スルヲ例トスル事

一臨幸ノ時其員數ヲ定ムルハ直ニ 聖旨ヲ奉スルヲ以テ定例トス但少クモ小隊ニ減セサル事

一百騎衛ノ大尉ハ事毎ニ 聖旨ヲ奉スヘキヲ以テ官中儀例等ノ事ニ至テハ一切官内卿ニ隷シ其令ヲ遵守ス可シトス唯衛ノ所轄ニ係ハル事

一進退點步資給會計等ハ必ス兵部卿并ニ近衛將官ノ令ヲ奉スヘキ事

一百騎衛ハ侍衛親近ノ兵タルヲ以テ其撰任勉メテ人ヲ得ルヲ以テ法トス故ニ國內華士族資格良貴ニ屬シ性行端正温良ニシテ武藝ニ精通スル者ヲ撰任スヘキ事

一上條ノ法ニ合セシムル為ニ兵部卿毎年一次國內

騎兵諸隊ノ司令長官ニ令シ下條ノ格例ニ準シテ其部下ヨリ撰舉セシムル事

第一 資格良貴 華士族ノ内

第二 性行端正 温良ニシテ管内懲罰等ニ觸レサル者

第三 武藝精通

其撰舉ヲ受クル者ハ検査ノ上近衛ノ騎兵ニ補シ百騎衛缺員アル毎ニ順次ヲ以テ之ニ補スル事

一番下ノ騎兵休暇ノ外調習ヲ懈ル可ラサル事
一其他一切ノ事例近衛ニ異ナルヲナキ事

左院議案

近衛條例并百騎條例共篤ト致熟覽候處右ハ各國通常ノ儀ニ付速ニ御取建有之度右調書聯隊騎隊砲兵

ノ條例ハ彼ノ成規ニ據リ居候儀ニ付別段異存モ無
之尤第四條并十條常例ノ事務守衛方法ノ更革非常
急劇ノ際ニ當リテハ近衛ノ都督宮内卿ニヨリ親シ
ク聖旨ヲ奉スルヲアルノ儀ヲ加ヘ度存候正月十日

五年三月十日

近衛兵番號改定

陸軍省改定

近衛兵番號改定如左

近衛一番大隊	元御親兵	一番大隊
同 一番大隊	右同	二番大隊
同 三番大隊	右同	三番大隊
同 四番大隊	右同	五番大隊
同 五番大隊	右同	七番大隊
同 六番大隊	右同	八九番大隊
同 一二三四砲隊	右同	一二三四砲隊
同騎兵隊	右同	騎兵隊